

2017年3月期 第2四半期 決算説明資料

2016年11月7日

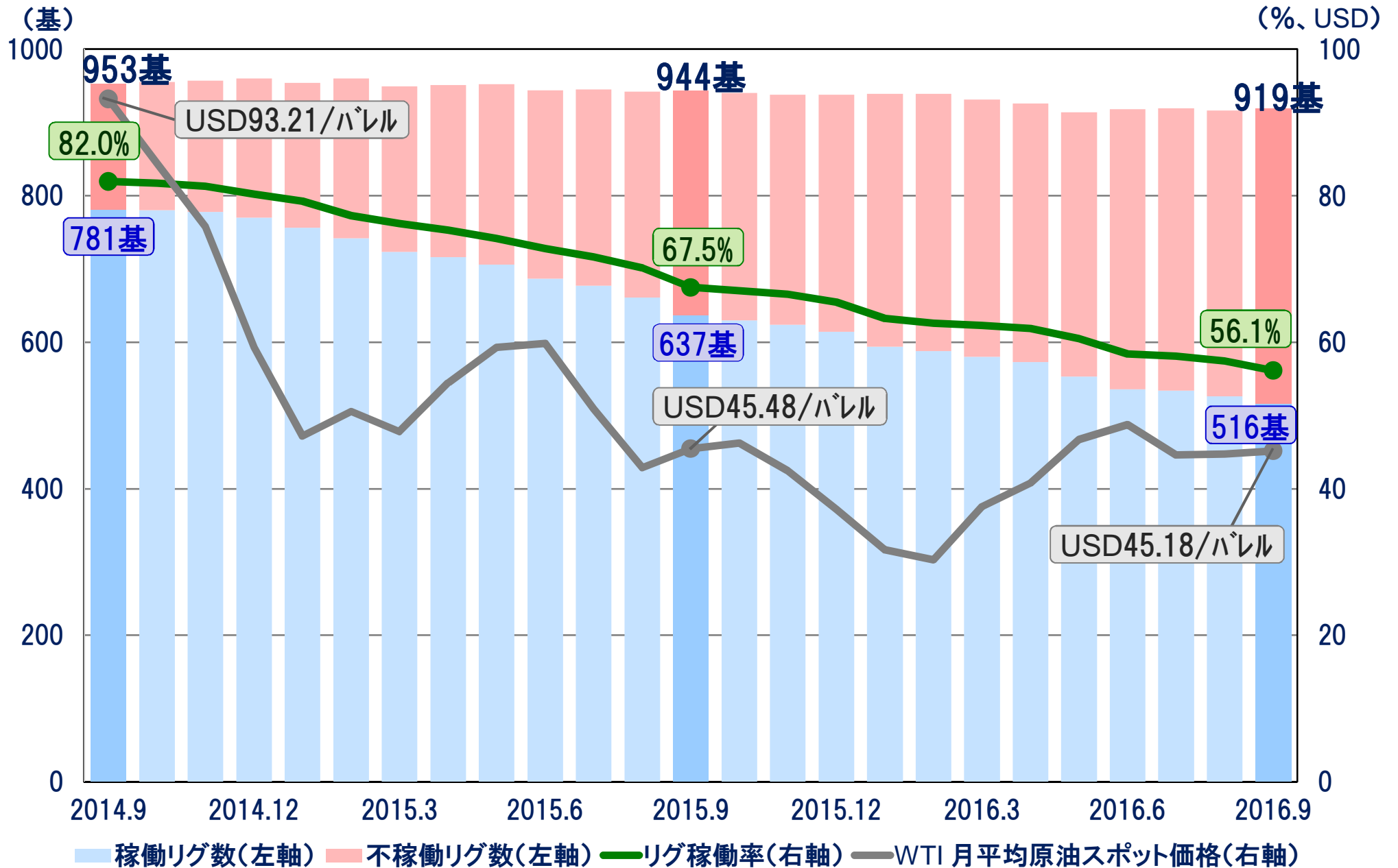
JDC 日本海洋掘削株式会社



1. **マーケットレビュー**
2. **2017年3月期第2四半期 決算概要**
3. **2017年3月期 通期業績予想**
4. **事業環境変化への対応と成長戦略**

1.マーケットレビュー

原油価格とリグ数・稼働率の推移



主要海域別リグ稼働状況

2016年9月時点

世界全体

↓ 919基(-25基)
↓ 516基(-121基)
↓ 56.1%(-11.4P)

北西ヨーロッパ
↑ 109基(+5基)
↓ 62基(-18基)
↓ 56.9%(-20.0P)

メキシコ湾(米国側)
↓ 106基(-13基)
↓ 37基(-17基)
↓ 34.9%(-10.5P)

地中海・黒海
↑ 34基(+7基)
18基(0基)
↓ 52.9%(-13.8P)

メキシコ湾(メキシコ側)
↓ 47基(-10基)
↓ 29基(-16基)
↓ 61.7%(-17.2P)

中東
↑ 170基(+9基)
↓ 121基(-15基)
↓ 71.2%(-13.3P)

極東
↑ 59基(+5基)
↓ 44基(-1基)
↓ 74.6%(-8.7P)

インド洋
↑ 47基(+2基)
↑ 45基(+9基)
↑ 95.7%(+15.7P)

東南アジア
↓ 117基(-6基)
↓ 53基(-11基)
↓ 45.3%(-6.7P)

南米
↓ 98基(-18基)
↓ 51基(-21基)
↓ 52.0%(-10.1P)

西アフリカ
↓ 75基(-9基)
↓ 29基(-24基)
↓ 38.7%(-24.4P)

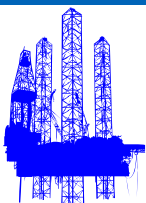
その他(カスピ海等)
↑ 57基(+3基)
↓ 27基(-7基)
↓ 47.4%(-15.6P)

稼働海域
上段:総リグ数(前年同期比)
中段:稼働リグ数(前年同期比)
下段:リグ稼働率(前年同期比)

当社グループ運用リグ稼働海域

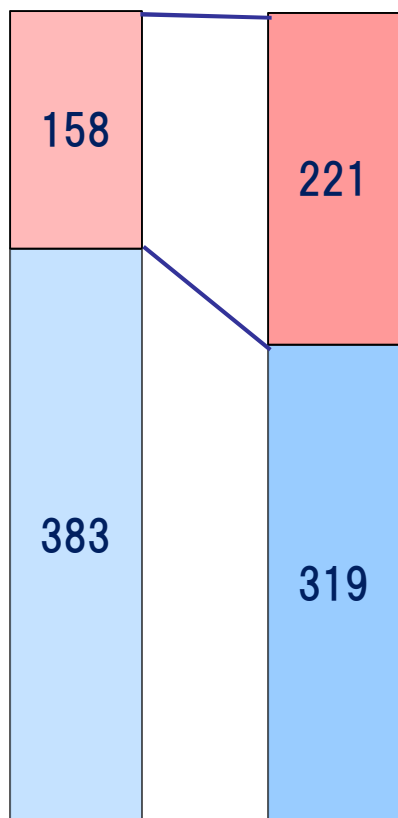
タイプ別リグ数・稼働率の推移

(基)



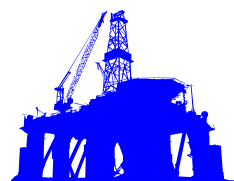
ジャッキアップ

2015年9月 541 → 2016年9月 540



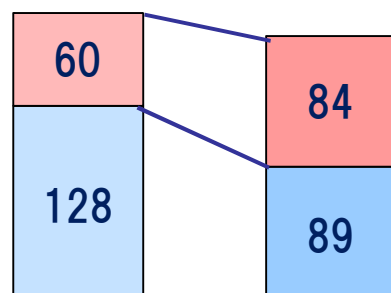
リグ稼働率

70.8% → 59.1%
(-11.7P)



セミサブ

2015年9月 188 → 2016年9月 173



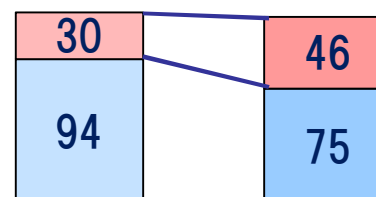
リグ稼働率

68.1% → 51.4%
(-16.7P)



ドリルシップ

2015年9月 124 → 2016年9月 121

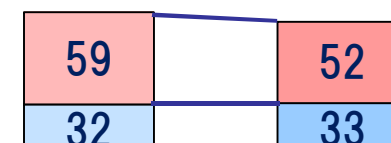


リグ稼働率

75.8% → 62.0%
(-13.8P)

その他

2015年9月 91 → 2016年9月 85



リグ稼働率

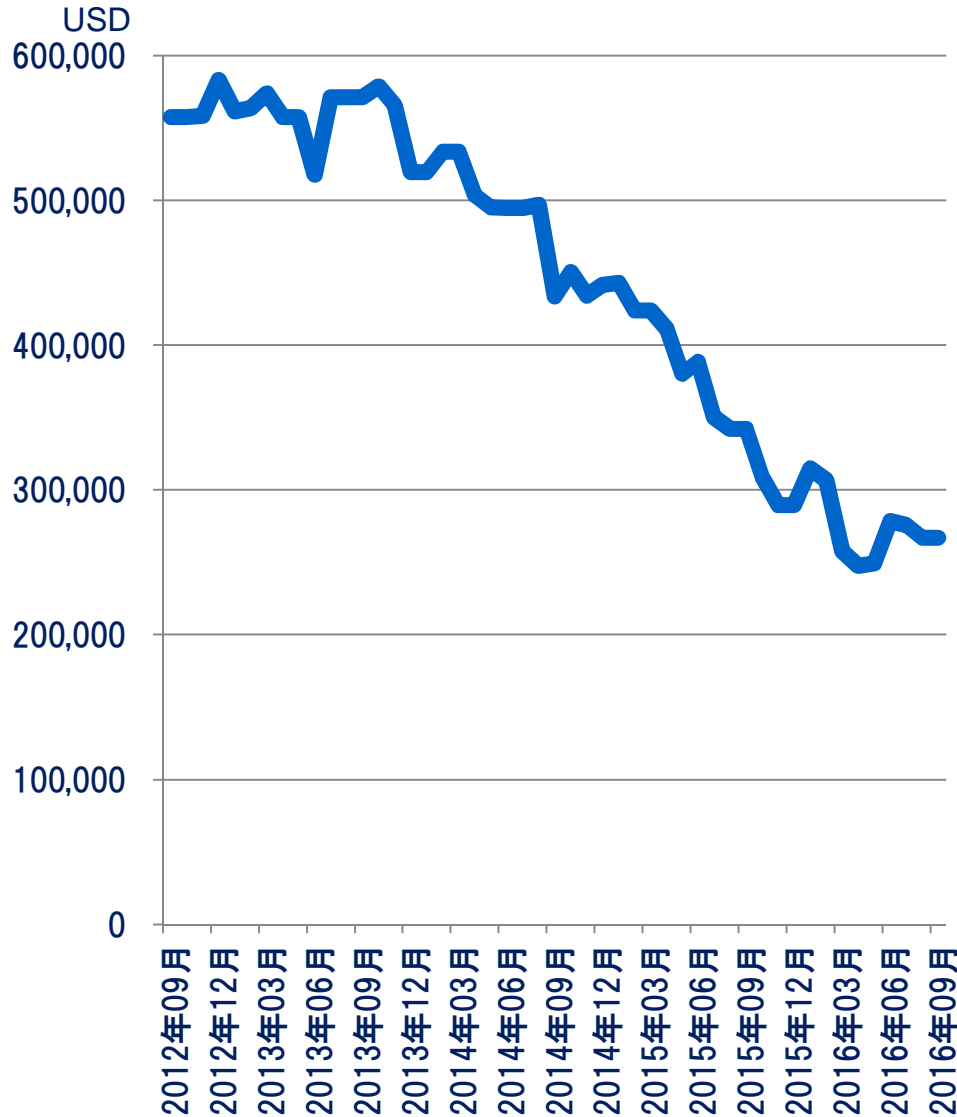
35.2% → 38.8%
(+3.6P)

不稼働リグ数

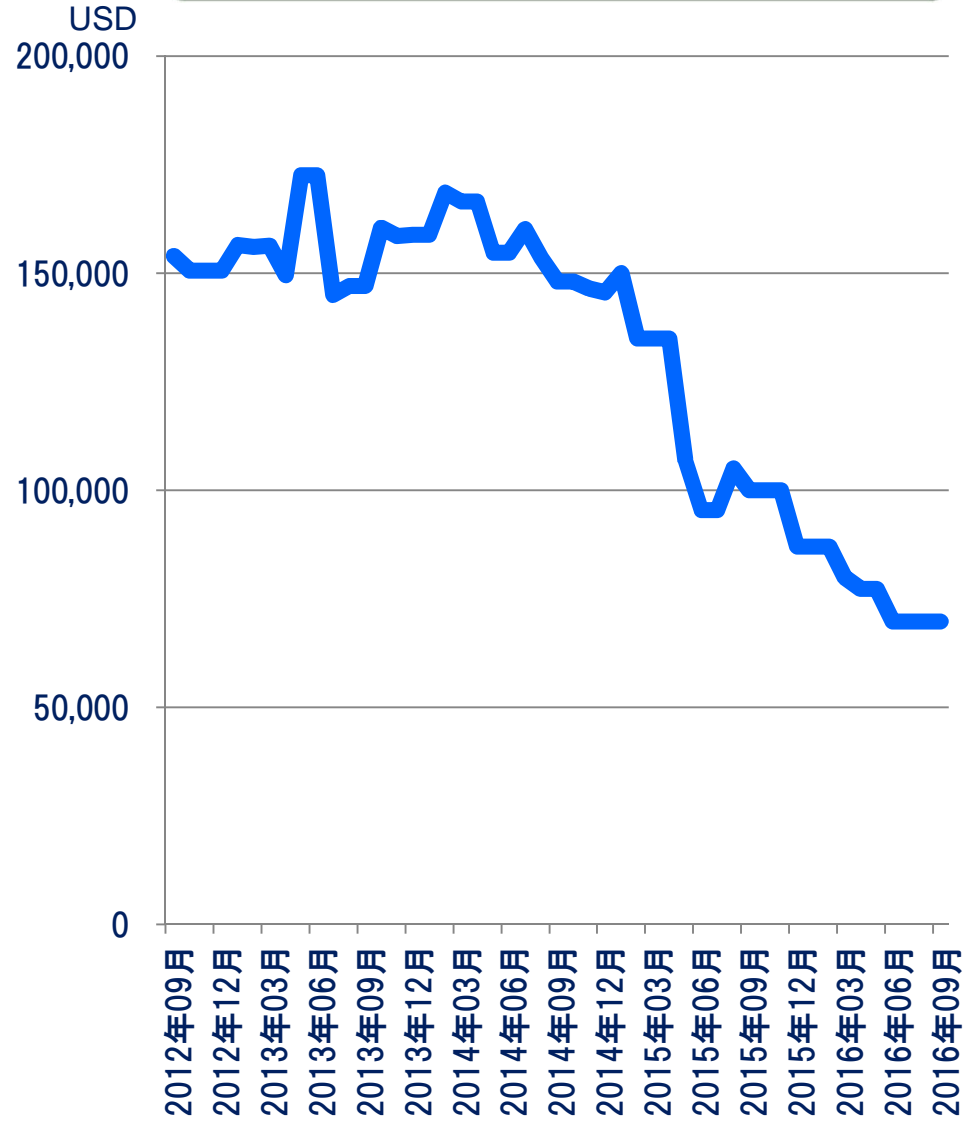
稼働リグ数

リグタイプ別ダイレートの推移

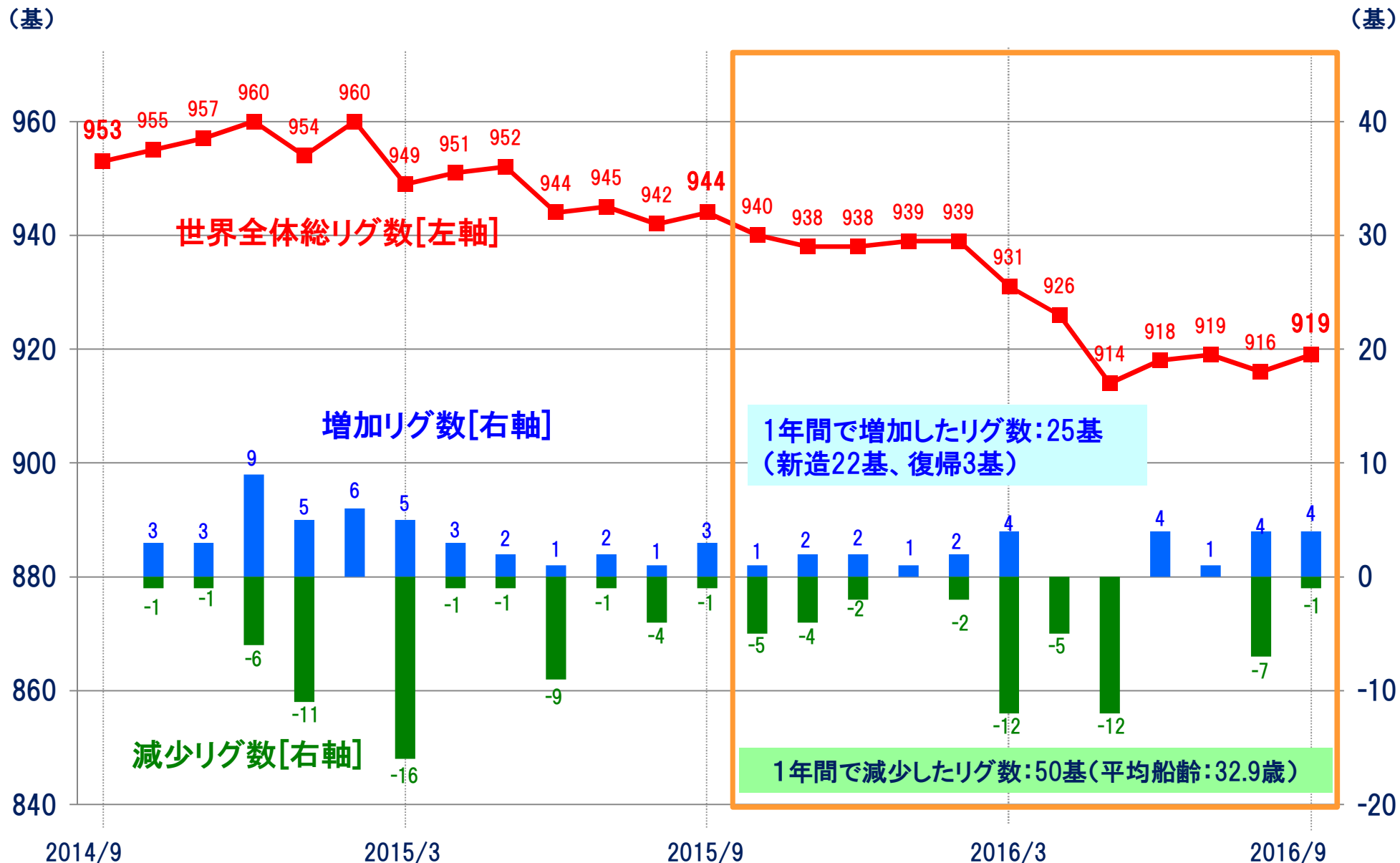
フローター
(最大稼働水深7,500ft超)



ジャッキアップ
(最大稼働水深360ft超)

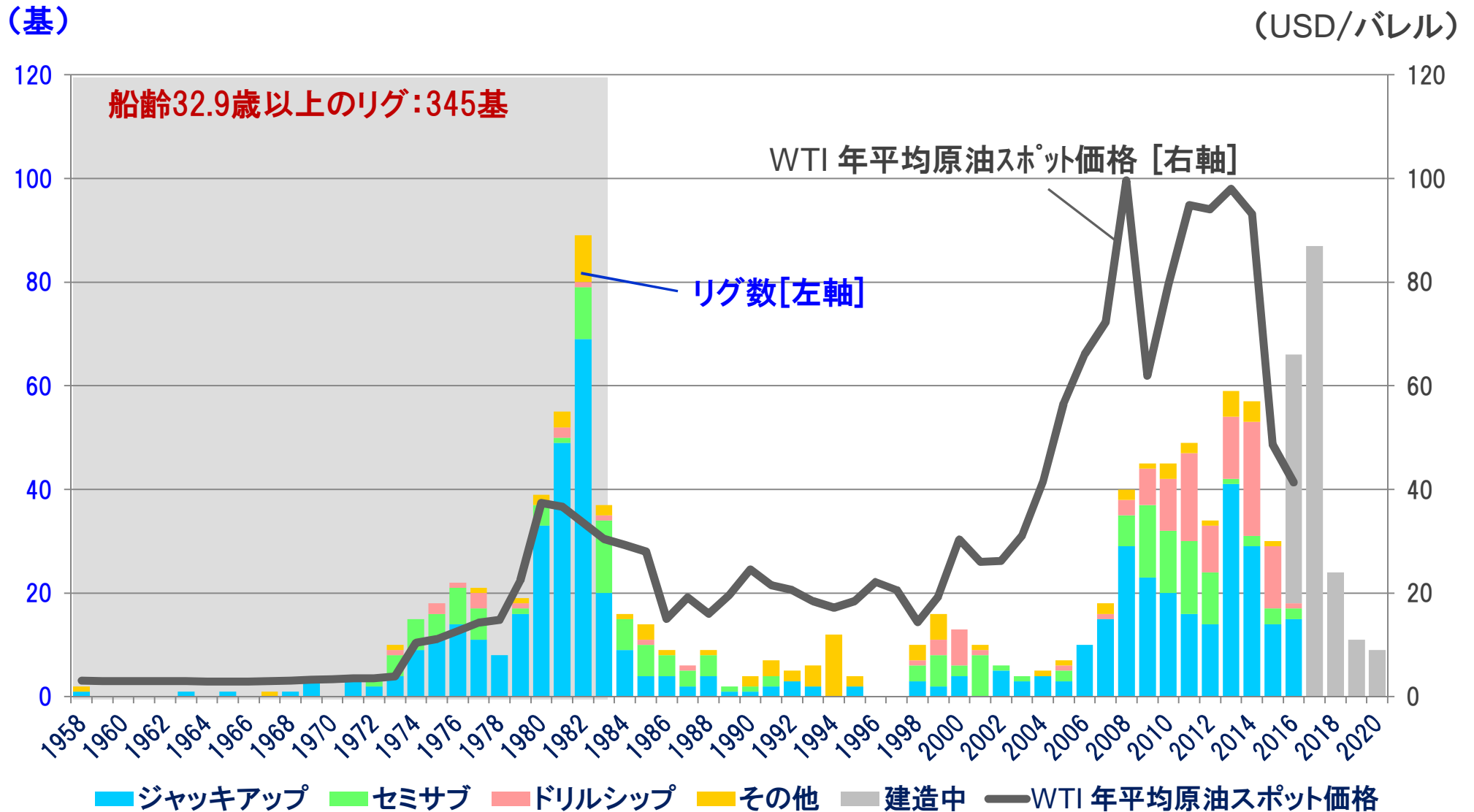


総リグ数とリグ数増減の推移



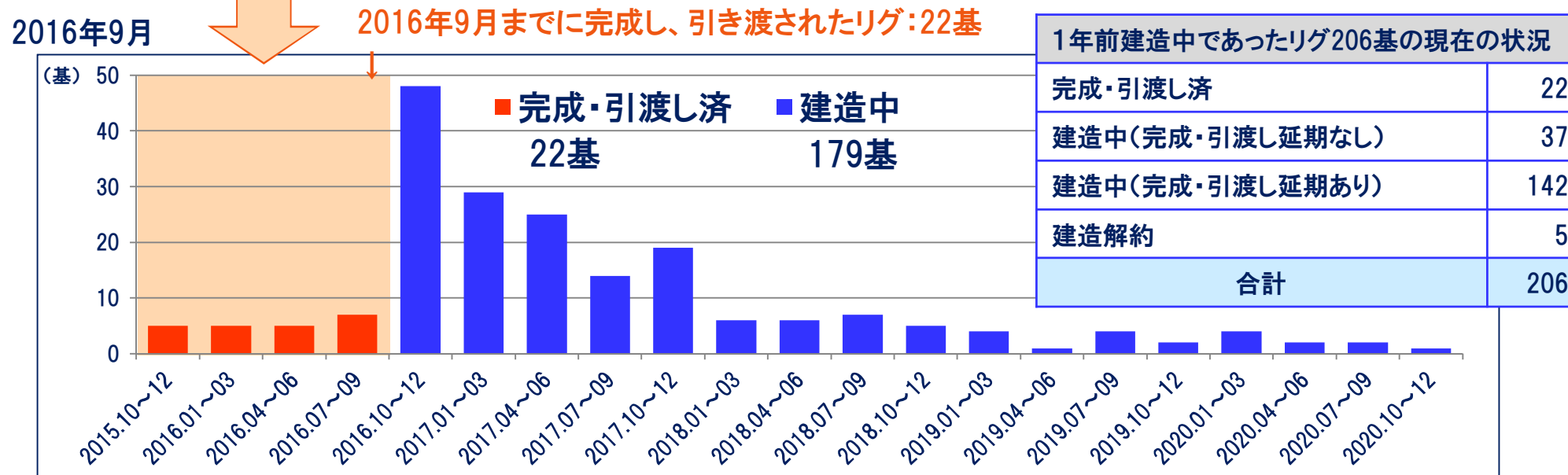
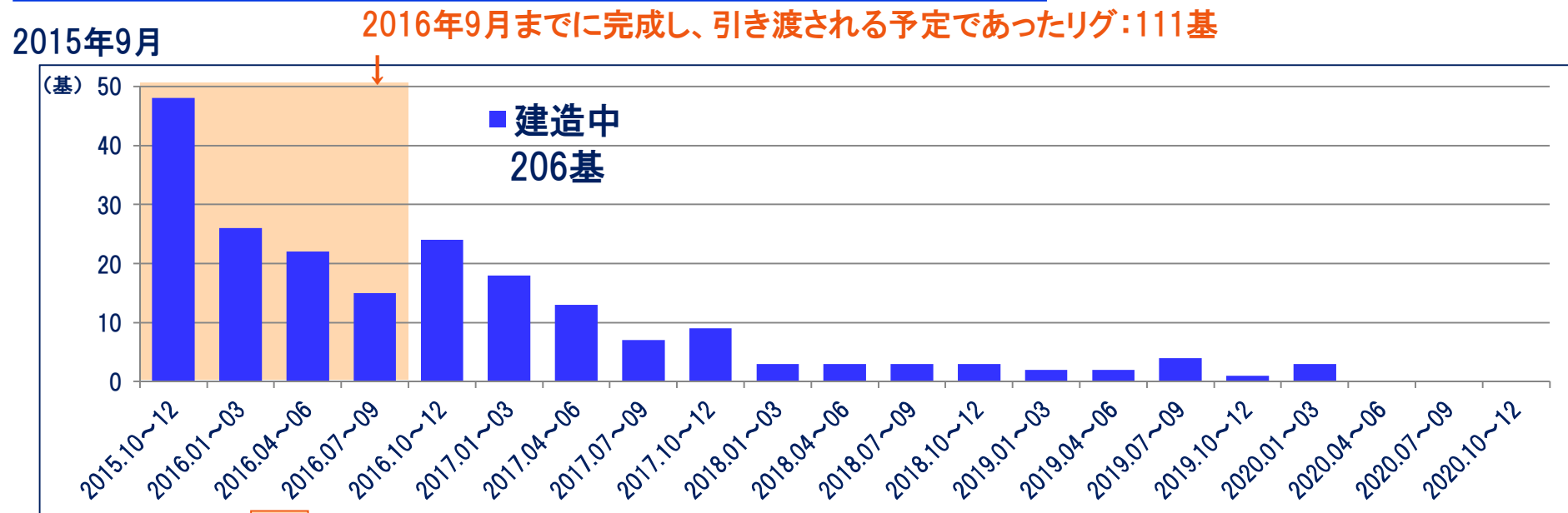
原油価格と建造リグ数の推移

2016年9月：総リグ数919基、建造中リグ数179基



延期されるリグの完成・引渡し時期

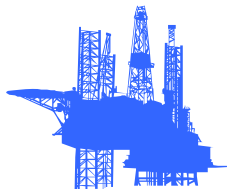
建造中リグ(2015年9月時点)206基の完成・引渡し予定日の動向



2. 2017年3月期第2四半期 決算概要

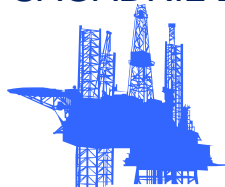
当社グループ運用リグの状況

「SAGADRIL-1」



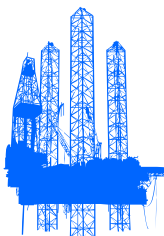
整備工事中
[アラブ首長国連邦]

「SAGADRIL-2」



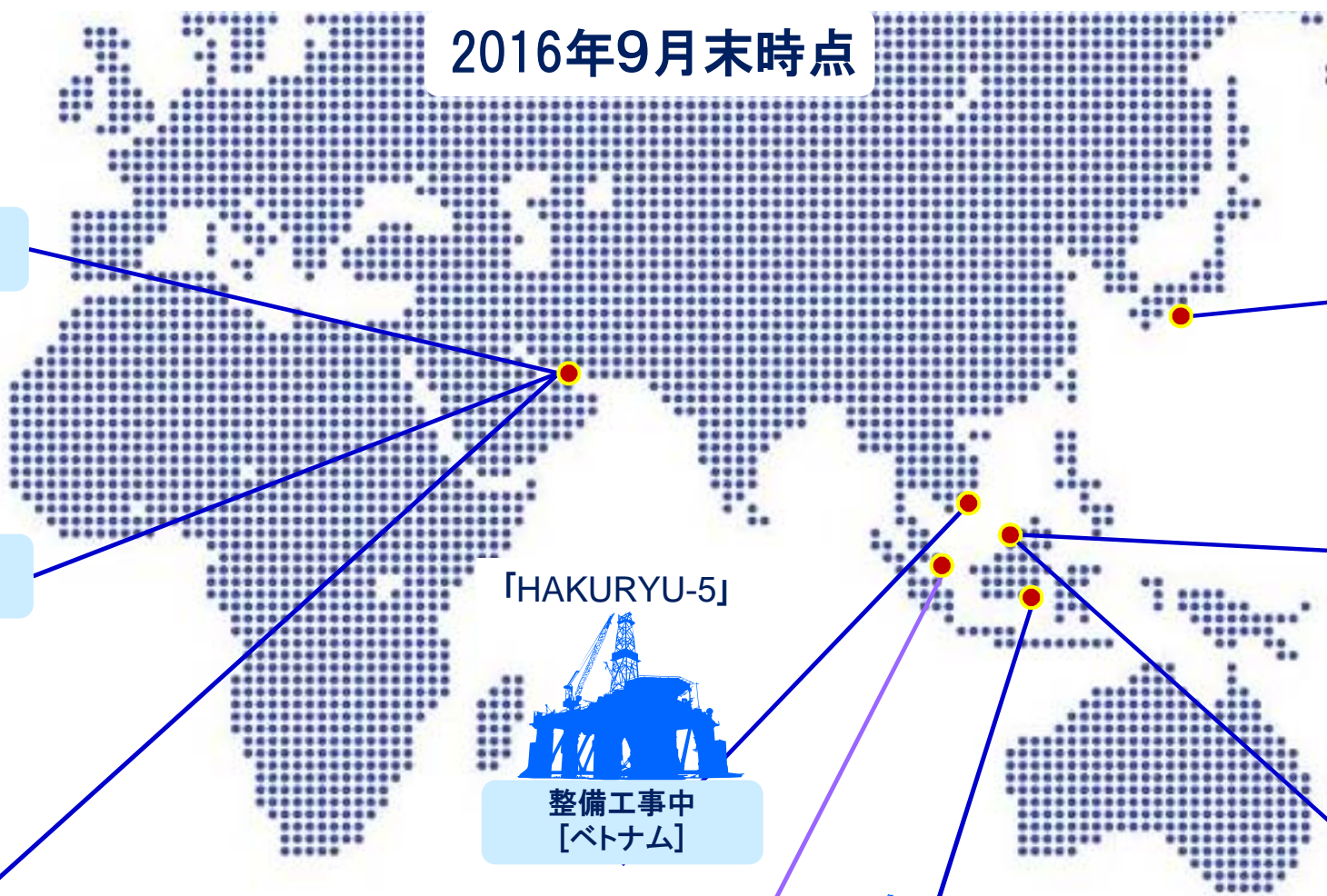
整備工事中
[アラブ首長国連邦]

「HAKURYU-12」



整備工事中
[アラブ首長国連邦]

2016年9月末時点

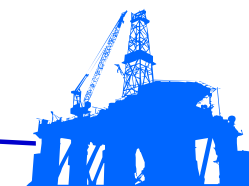


「ちきゅう」
JAMSTEC所有



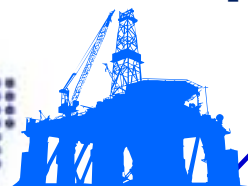
操業中
[高知県室戸沖]

「NAGA 1」



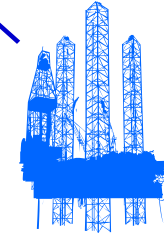
整備工事中
[マレーシア]

「HAKURYU-5」



整備工事中
[ベトナム]

「HAKURYU-11」



整備工事中
[マレーシア]

「HAKURYU-14」
(仮称)

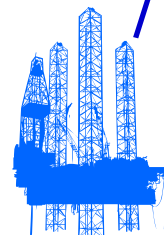


「HAKURYU-15」
(仮称)











シンガポールで建造中

「HAKURYU-10」



整備工事中
[インドネシア]

リグフリート操業実績

		1Q			2Q		
		4	5	6	7	8	9
	HAKURYU-5	TNK社 ベトナム					
	SAGADRIL-1						
	SAGADRIL-2						
	HAKURYU-10	Total E&P社 インドネシア					
	HAKURYU-11	PVD社 ベトナム					
	HAKURYU-12						
	NAGA 1		PCSB社 マレーシア				
	ちきゅう	JAMSTEC 日本	JMH社 日本		JAMSTEC 日本		

完工
 科学掘削
 工事・待機等

(顧客先の正式社名は巻末の略語集をご参照ください)

連結損益計算書(前期比)



単位:百万円 (百万円未満切捨て)	2016年3月期 第2四半期	2017年3月期 第2四半期	増減	増減率
売上高	24,835	10,776	△ 14,059	△56.6%
売上原価	19,742	12,280	△ 7,461	△37.8%
販売費及び一般管理費	1,633	1,186	△ 446	△27.4%
営業利益	3,460	△ 2,690	△ 6,151	-
営業外収益	211	150	△ 60	△28.8%
営業外費用	457	804	+347	+75.9%
経常利益	3,213	△ 3,345	△ 6,559	-
特別利益	-	-	-	-
特別損失	23	12	△ 10	△46.3%
税金等調整前四半期純利益	3,190	△ 3,358	△ 6,548	-
法人税等	808	295	△ 512	△63.4%
非支配株主に帰属する四半期純利益	157	86	△ 70	△44.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益(※)	2,224	△ 3,740	△ 5,965	-
1株当たり四半期純利益(円)	123.58	△207.81	△331.39	-

「ちきゅう」	: △4,984百万円
「HAKURYU-12」	: △3,502百万円
「SAGADRIL-2」	: △1,723百万円
「HAKURYU-11」	: △1,711百万円
「SAGADRIL-1」	: △1,647百万円

「ちきゅう」	: △4,404百万円
「HAKURYU-12」	: △1,749百万円
「SAGADRIL-2」	: △505百万円
「HAKURYU-11」	: △949百万円
「SAGADRIL-1」	: △458百万円

為替差損 : +357百万円

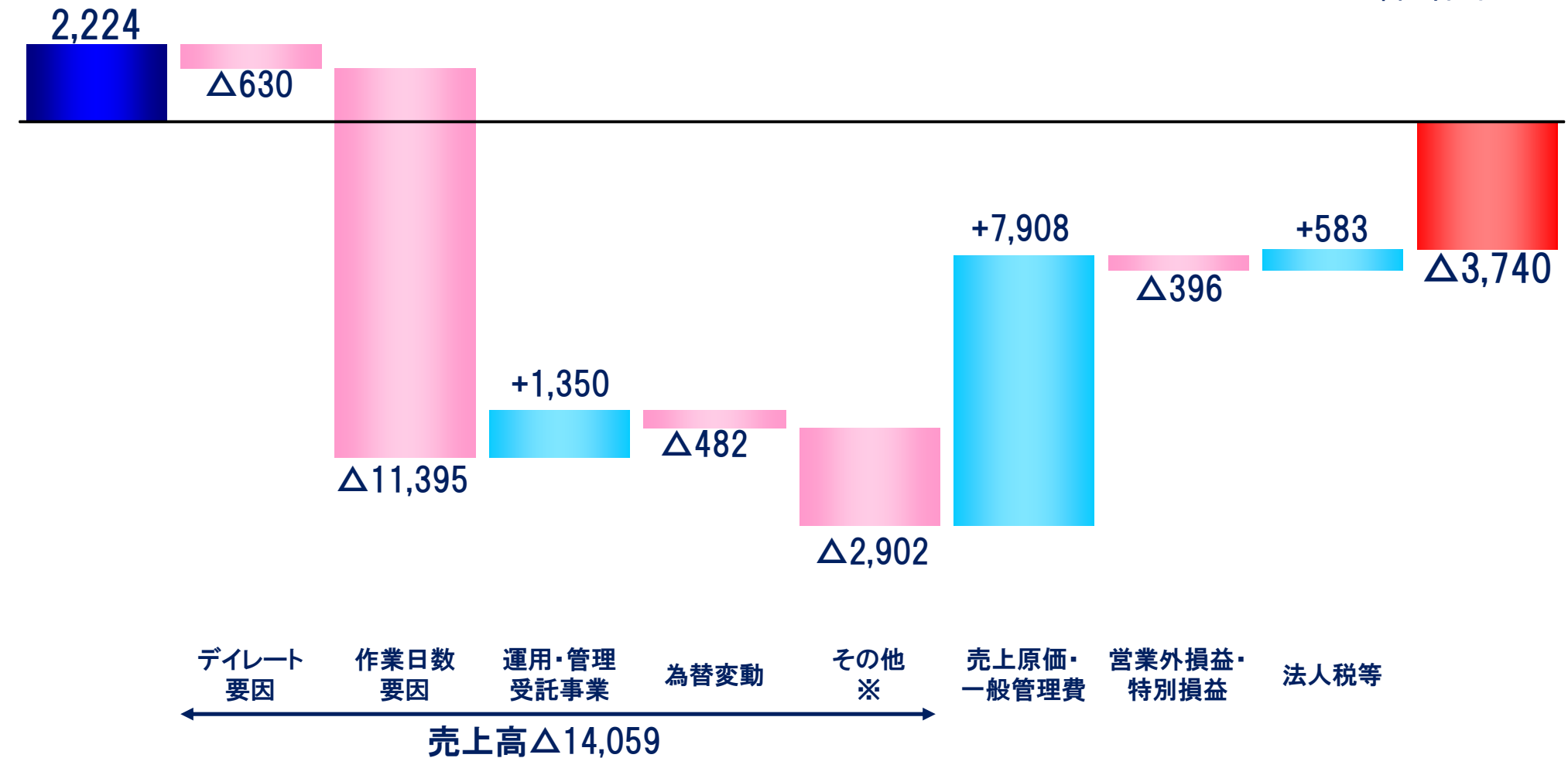
期中平均為替レート
 2016年3月期2Q: 121.69円/USD
 2017年3月期2Q: 109.04円/USD

※以下、本資料では「四半期純利益」と略します。

四半期純利益の増減分析(前期比)



単位:百万円



2016年3月期
第2四半期
四半期純利益

※その他Δ2,902の主な内訳
・「ちきゅう」(商業掘削関連サービス等): Δ2,962

2017年3月期
第2四半期
四半期純利益

業績予想比

単位:百万円 (百万円未満切捨て)	前回予想 (8月4日発表)	実績		増減	増減率
売上高	10,794	10,776	※1	△18	△0.2%
営業利益	△3,088	△2,690	※2	+397	-
経常利益	△3,833	△3,345	※2	+488	-
四半期純利益	△4,271	△3,740		+530	-

※1 売上高

「ちきゅう」科学掘削が増収となったものの、「SAGADRIL-1」及び「SAGADRIL-2」で見込んでいた案件の契約が獲得できなかったことなどにより減収

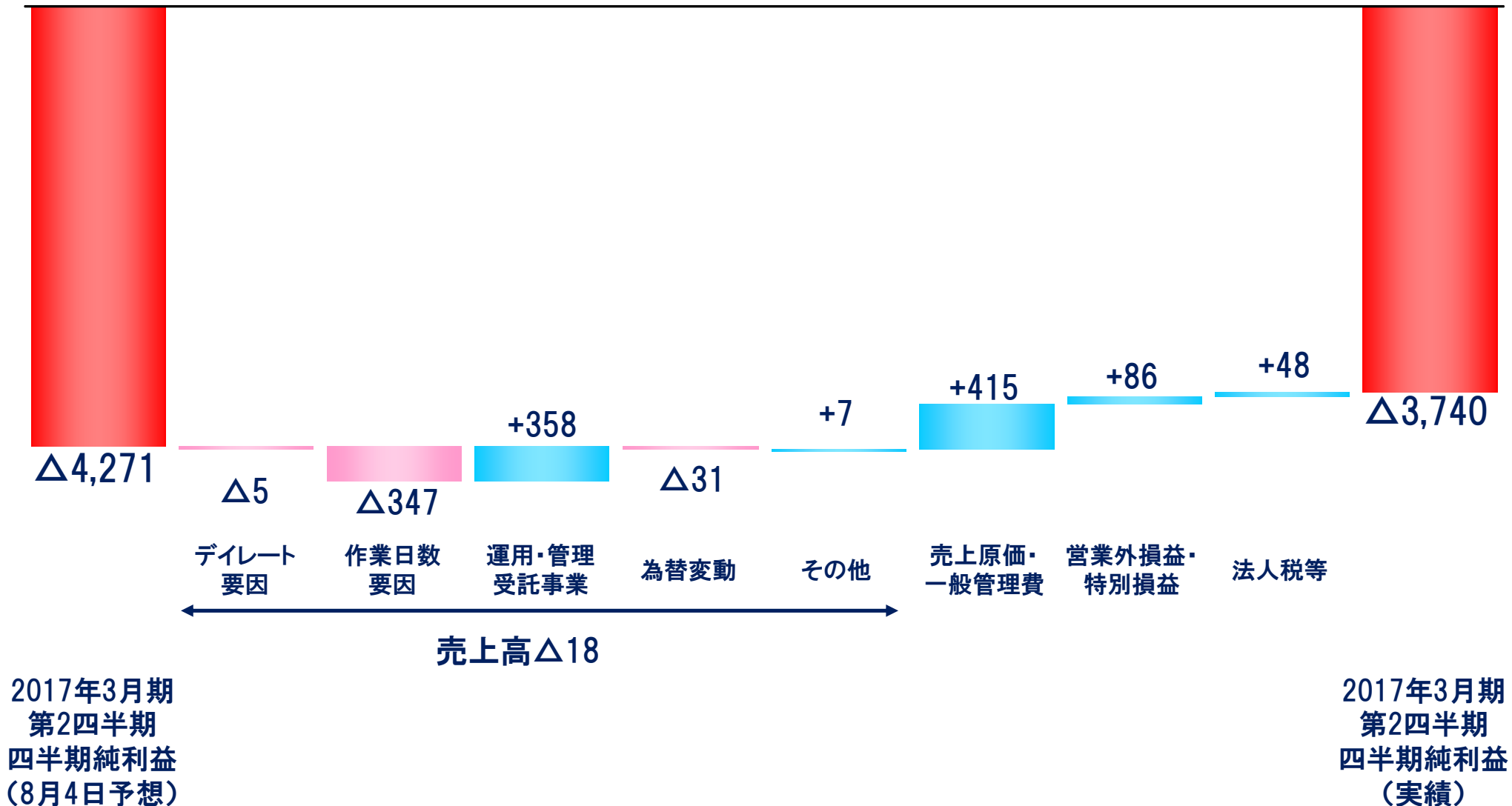
※2 営業利益、経常利益

減収となったものの、人件費、修繕費、物品費等の節減を実施したことにより売上原価が予想に比べ減少し、増益

四半期純利益の増減分析(業績予想比)



単位:百万円



連結貸借対照表(前期末比)

単位:百万円 (百万円未満切捨て)	2016年 3月期末	2017年3月期 第2四半期末	増減	増減率	
流動資産	64,237	57,106	△ 7,130	△11.1%	未収入金等 : △3,770百万円 有価証券 : △2,820百万円
有形固定資産	43,658	40,647	△ 3,010	△6.9%	機械装置等の減価償却、 : △2,867百万円 為替評価換え
無形固定資産	238	233	△ 5	△2.2%	
投資その他	1,454	1,410	△ 44	△3.1%	
資産合計	109,589	99,398	△ 10,190	△9.3%	
流動負債	19,534	18,705	△828	△4.2%	短期借入金 : △720百万
固定負債	36,709	33,193	△ 3,516	△9.6%	長期借入金 : △2,588百万円 社債 : △924百万円
負債合計	56,243	51,899	△ 4,344	△7.7%	
純資産	53,345	47,499	△ 5,846	△11.0%	四半期純利益 : △3,740百万円 為替換算調整 : △1,858百万円 配当金 : △179百万円
負債・純資産合計	109,589	99,398	△ 10,190	△9.3%	
自己資本比率	48.0%	47.0%	△1.0P	-	

3. 2017年3月期 通期業績予想

リグフリート操業計画(前回発表:8月4日)

前回発表(8月4日)

2017年3月期		1Q			2Q			3Q			4Q		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	HAKURYU-5	■ TNK社 ベトナム											
	SAGADRIL-1												
	SAGADRIL-2												
	HAKURYU-10	■ Total E&P社 インドネシア											
	HAKURYU-11	■ PVD社 ベトナム											
	HAKURYU-12												
	NAGA 1		■ PCSB社 マレーシア										
	ちきゆう	■ JAMSTEC 日本	■ JMH社 日本				■ JAMSTEC 日本						









契約済
 工事・待機等
 科学掘削
 受注活動中

(顧客先の正式社名は巻末の略語集をご参照ください)

リグフリート操業計画(今回発表:11月7日)



今回発表(11月7日)

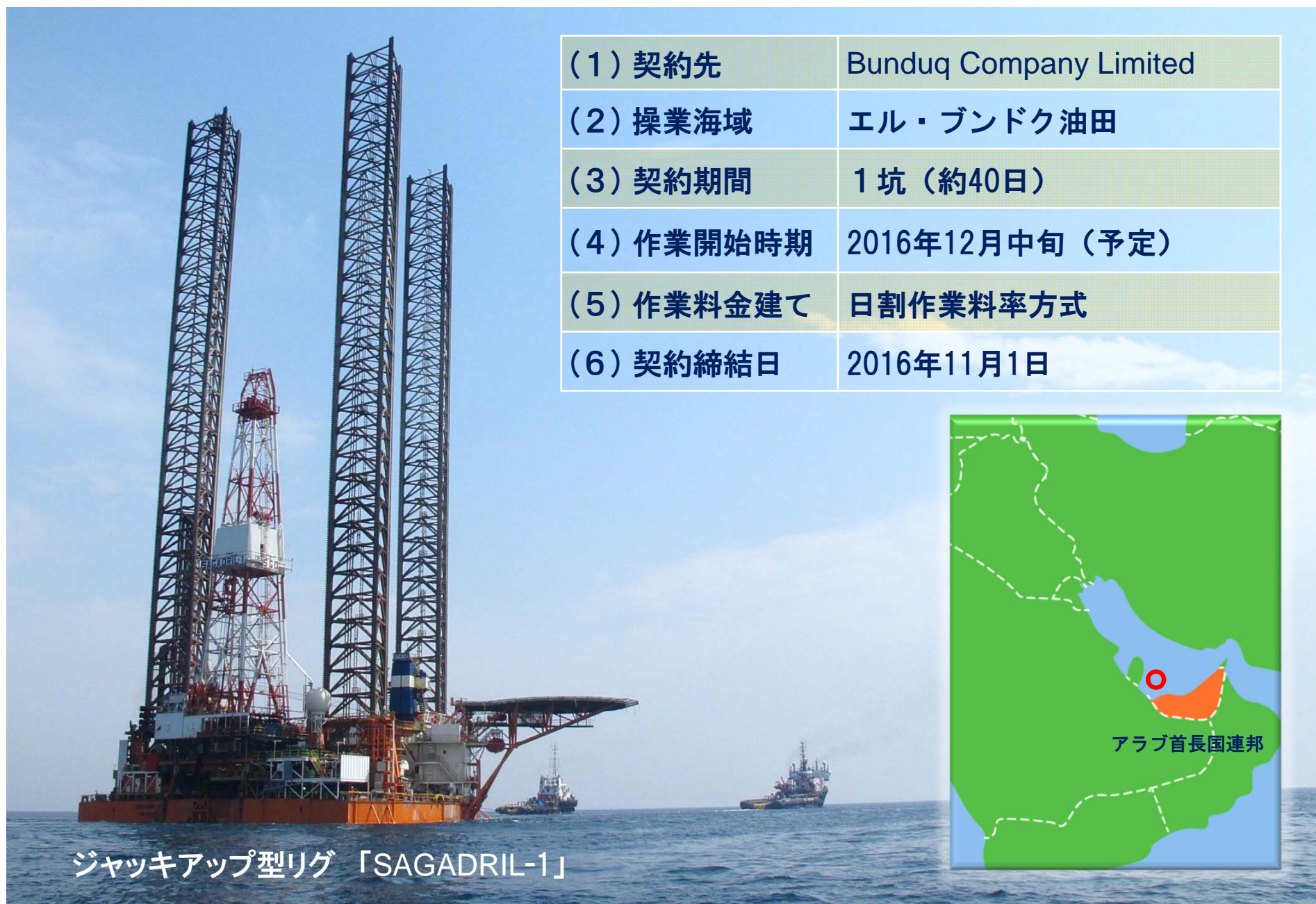
2017年3月期		1Q			2Q			3Q			4Q		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	HAKURYU-5	TNK社 ベトナム											
	SAGADRIL-1									Bundug社 UAE			
	SAGADRIL-2												
	HAKURYU-10	Total E&P社 インドネシア											
	HAKURYU-11	PVD社 ベトナム											
	HAKURYU-12												
	NAGA 1		PCSB社 マレーシア										
	ちきゅう	JAMSTEC 日本	JMH社 日本					JAMSTEC 日本					

■ 契約済
 ■ 工事・待機等
 ■ 科学掘削
 ■ 受注活動中(業績予想には織り込まず)

斜線部分は前回発表計画からの主な見直し箇所を示す

(顧客先の正式社名は巻末の略語集をご参照ください)

「SAGADRIL-1」新規掘削工事受注



(1) 契約先	Bunduq Company Limited
(2) 操業海域	エル・ブンドク油田
(3) 契約期間	1坑（約40日）
(4) 作業開始時期	2016年12月中旬（予定）
(5) 作業料金建て	日割作業料率方式
(6) 契約締結日	2016年11月1日



ジャッキアップ型リグ「SAGADRIL-1」

通期連結業績予想要約

単位:百万円 (百万円未満切捨て)	8月4日発表	11月7日発表		増減	増減率
売上高	20,378	15,191	※1	△5,186	△25.5%
営業利益	△8,195	△8,998	※2	△802	—
経常利益	△9,256	△9,968	※2	△712	—
親会社株主に帰属 する当期純利益(※)	△9,830	△10,488		△657	—

※以下、本資料では「当期純利益」と略します。

※1 売上高

受注活動中のリグの掘削契約分については、今期の業績予想に織り込まないこととしたため、減収を予想

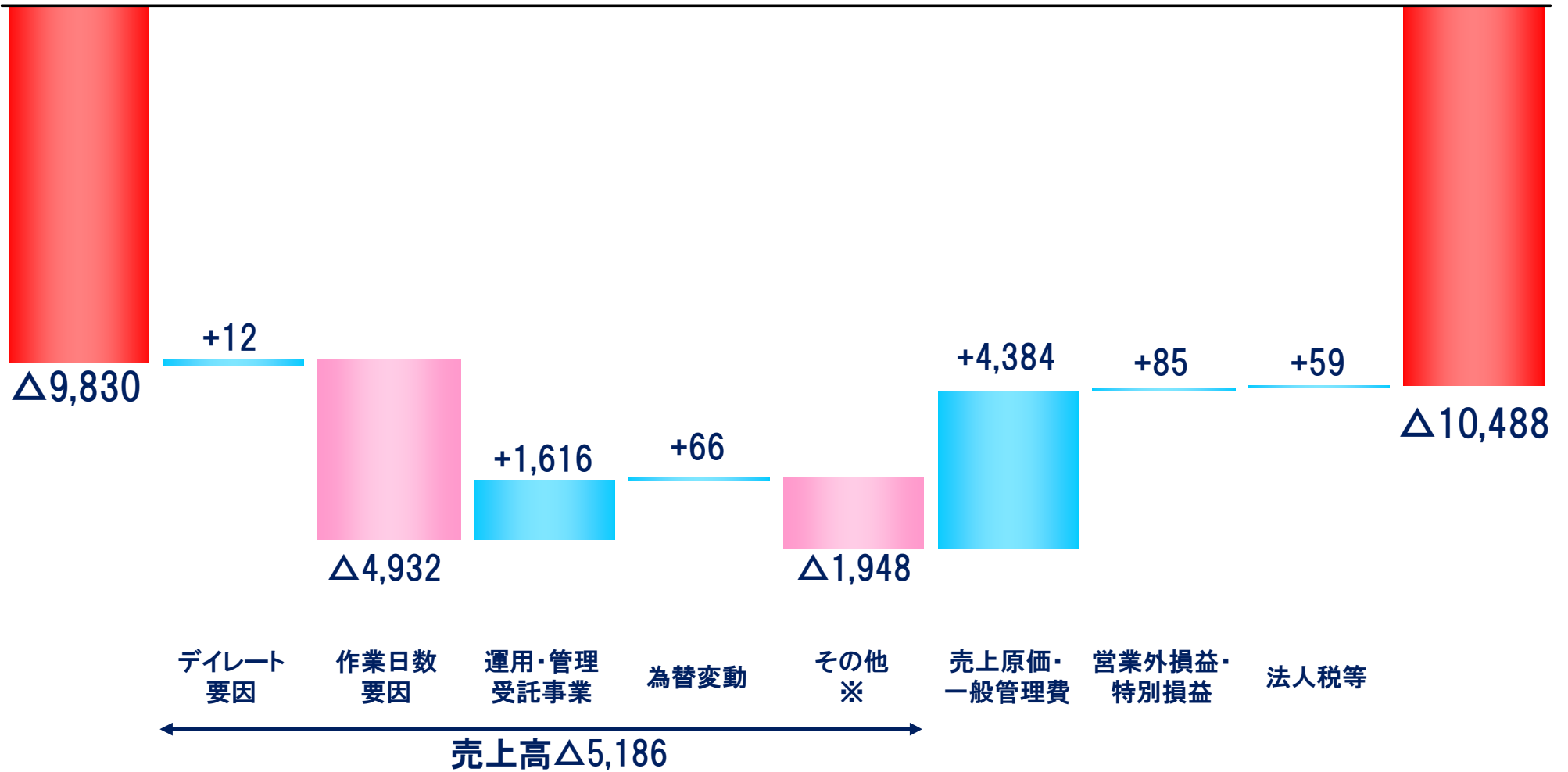
※2 営業利益、経常利益

減益となるが、売上原価及び一般管理費の更なる節減を予定していることから、売上高ほどの減少を見込んでいない

当期純利益の増減分析(前回予想比)



単位:百万円



8月4日発表
当期純利益

※その他Δ1,948の主な内訳
-「ちきゅう」(商業掘削関連サービス等): Δ1,740

11月7日発表
当期純利益

リグフリート中期操業展開(2017年3月期～2019年3月期)



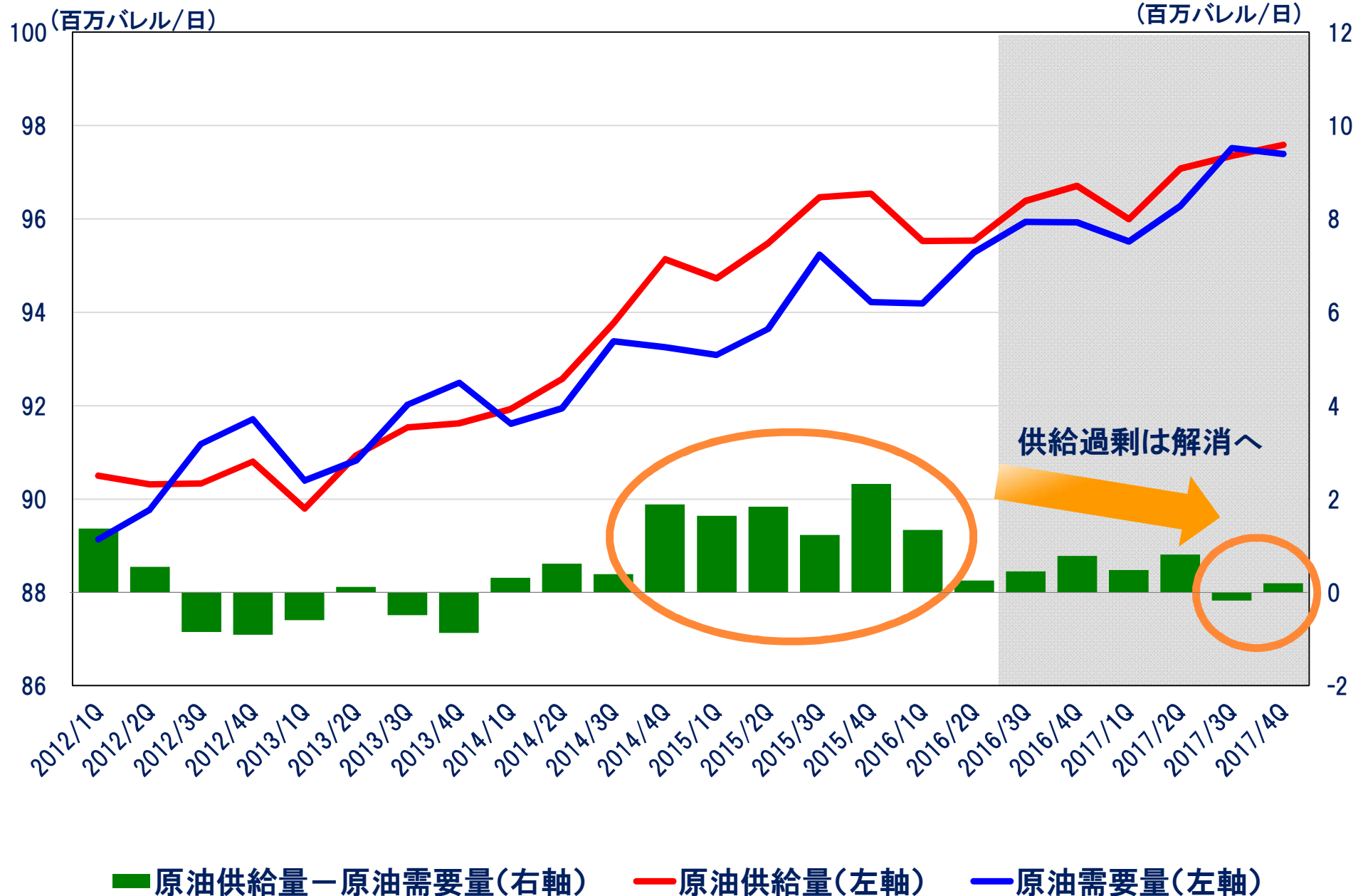
	2016.4 今回発表(11月7日)													2017.4												2018.4											
	2017年3月期													2018年3月期												2019年3月期											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
HAKURYU-5	TNK社 ベトナム																									(東南アジア・極東)											
SAGADRIL-1											Bundug社 UAE															(中東)											
SAGADRIL-2																										(中東)											
HAKURYU-10	Total E&P社 インドネシア																									(中東、東南アジア)											
HAKURYU-11	PVD社 ベトナム																									(インド洋)											
HAKURYU-12																										(インド洋、中東)											
HAKURYU-14											建造中 シンガポール															(中東・東南アジア)											
HAKURYU-15											建造中 シンガポール																										
NAGA 1	PCSB社 マレーシア																									(東南アジア)											
ちきゅう (JAMSTEC所有)	JMH社 日本																									JAMSTEC (科学掘削を行わない期間は商業掘削案件の受注活動中)											

契約済
 工事・待機等
 科学掘削
 受注活動中(業績予想には織り込まず)

(顧客先の正式社名は巻末の略語集をご参照ください)

4.事業環境変化への対応と成長戦略

均衡に向かう原油需給



当面の課題

掘削契約の確保

経費節減

中長期的な課題

● リグフリートの増強

● 大水深・新規マーケットへの積極的参入

● 海洋掘削技術の応用

安全操業

人材確保と育成

掘削契約の確保は、当社の最重要課題。実績が豊富な中東、東南アジアに加え、北極海・高緯度海域での操業も目指し、掘削契約の獲得に全力を傾注



厳しい事業環境に対応するため、売上原価や一般管理費の事業コスト節減を更に推進中

売上原価の節減

- ◆ 外国人リグクルーの雇い止めによる人件費節減
- ◆ 待機中リグの一括管理による人件費・係留費節減
- ◆ 修繕項目、購入物品の抑制による支出節減
- ◆ 現地経費(業務委託費、物流費等)の節減
- ◆ リグの資機材、機器類、パーツ等の仕入価格引き下げによる節減

一般管理費の節減

- ◆ 役員報酬の減額、役員賞与の全額カット
- ◆ 業務効率化による人件費、旅費交通費、業務委託費等の節減

安全操業は当社事業の根幹。統合型管理システム(HSQE-Management System)に基づき、安全性・効率の一段の向上を推進中



2015年にフランスのTotal E&Pの契約下にあった世界中のリグ45基の中から当社の「HAKURYU-10」が最も秀でたパフォーマンスを発揮したリグに選ばれ、表彰された(2016年6月)



In recognition of 2015 Best Rig Performance within Total E&P
Hakuryu-10 operated by Japan Drilling for TOTAL E&P Indonesie

事業基盤を支える人材の確保と早期育成

- ① 熟練リグクルーの経験・技術・知識の早期継承
- ② 次世代リーダーを早期育成するための計画的な取り組み
- ③ 多様な人材の活用による組織の活性化



課題

- ・ 熟練リグクルーの経験・技術・知識の早期継承
- ・ 次世代リーダーおよび若手社員の早期育成

施策

- ・ 人材の計画的採用と配置
- ・ 体系的・組織的な教育・育成の実施

日本の将来の海洋産業を担う技術者の育成に向けた取り組みを産官学公が連携して推進するプラットフォーム「日本財団 オーシャンイノベーションコンソーシアム」に特別会員として参加(2016年10月)



・特別会員企業(当社含む5社)

株式会社商船三井、ジャパン マリンユナイテッド株式会社、日本海洋掘削株式会社、日本郵船株式会社、三井造船株式会社

・正会員企業(5社)

株式会社IHI、川崎重工株式会社、国際石油開発帝石株式会社、千代田化工建設株式会社、三菱重工株式会社

・準会員企業(2社)

鹿島建設株式会社、大成建設株式会社

・大学(13大学)

・公的機関(4機関)

しばらくは厳しい局面が続くが、
中長期的には成長を続ける海洋掘削市場



市況が反転し回復基調に至る際に、成長機会を逃さない戦略

Bunduq 社…Bunduq Company Limited

JAMSTEC…国立研究開発法人海洋研究開発機構

JMH社…日本メタンハイドレート調査株式会社

PCSB社…Petronas Carigali Sdn. Bhd.

PVD社…PetroVietnam Drilling & Well Services Corporation

TNK社…TNK Vietnam B.V.

Total E&P社…Total E&P Indonesie

本資料ご利用にあたっての注意事項

本資料に記載されている業績見通しや事業環境等の将来に関する記述は、様々な要因により変更となる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

日本海洋掘削株式会社 広報・IR室 電話03-5847-5862